



## マネージド ファイル転送の設定

---

- [マネージドファイル転送の概要 \(1 ページ\)](#)
- [マネージドファイル転送の要件 \(3 ページ\)](#)
- [マネージドファイル転送のタスク フロー \(6 ページ\)](#)
- [外部ファイル サーバの公開キーおよび秘密キーのトラブルシューティング \(18 ページ\)](#)
- [マネージドファイル転送の管理 \(19 ページ\)](#)

## マネージド ファイル転送の概要

マネージドファイル転送 (MFT) を使用すると、Cisco Jabber などの IM and Presence サービスクライアントは他のユーザ、アドホック グループ チャット ルーム、および永続的なチャットルームにファイルを転送することができます。ファイルは外部ファイルサーバのリポジトリに保存され、トランザクションが外部データベースのログに記録されます。

マネージドファイル転送機能を展開するには、以下のサーバも配置する必要があります。

- **外部データベース**：すべてのファイル転送が外部データベースに記録されます。
- **外部ファイル サーバ**：転送された各ファイルのコピーを外部ファイル サーバ上のリポジトリに保存します。



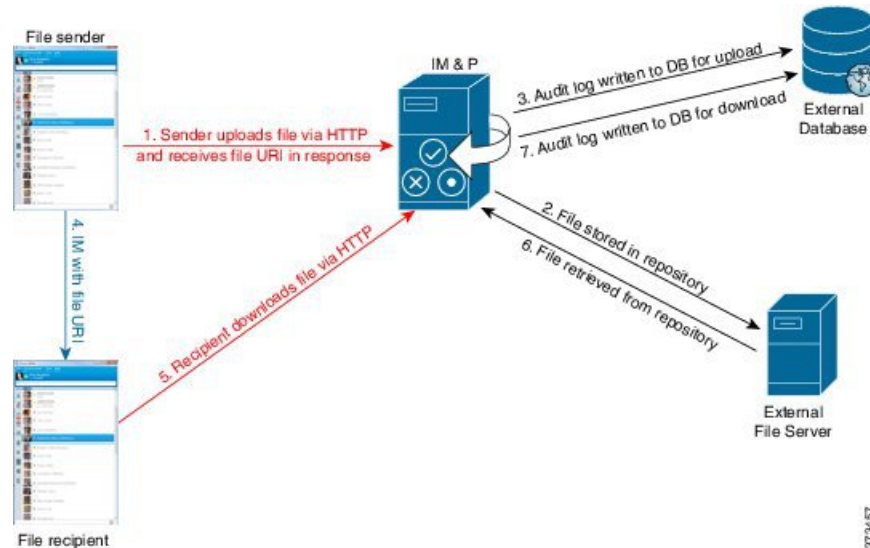
---

(注) この設定はファイル転送に固有な設定であり、法規制コンプライアンスのためのメッセージアーカイバ機能には影響しません。

---

ユース ケースについての参照先 [マネージド ファイル転送の通話フロー \(2 ページ\)](#)

## マネージドファイル転送の通話フロー



1. 送信者がHTTP経由でファイルをIM and Presence Service サーバにアップロードし、サーバはファイルのURIを応答として返します。
2. IM and Presence Service サーバがファイルをストレージ用のファイルサーバリポジトリに送信します。
3. IM and Presence Service が、外部データベース ログテーブルに、アップロードを記録する項目を書き込みます。
4. 送信者は、受信者にIMを送信します。IMには、ファイルのURIが含まれています。
5. 受信者は、このファイルのIM and Presence Service にHTTP要求を送信します。IM and Presence Service が、リポジトリからファイルを読み取り(6)、ログテーブルにダウンロードを記録(7)した後で、ファイルが受信者にダウンロードされます。

グループチャットや常設チャットルームにファイルを転送するためのフローもこれと類似していますが、異なる点として送信者はチャットルームにIMを送信し、チャットルームの各参加者は個別にファイルダウンロード要求を送信します。



- (注) ファイルのアップロードが発生すると、そのドメインで使用可能な企業内のすべてのマネージドファイル転送サービスの中からマネージドファイル転送サービスが選択されます。ファイルアップロードは、このマネージドファイル転送サービスを実行しているノードに関連付けられた外部データベースと外部ファイルサーバのログに記録されます。あるユーザがこのファイルをダウンロードすると、この2番目のユーザのホームがどこかには関係なく、同じマネージドファイル転送サービスがその要求を処理して、同じ外部データベースおよび同じ外部ファイルサーバのログに記録します。

## マネージドファイル転送の要件

- 外部データベースおよび外部ファイル サーバも配置する必要があります。
- すべてのクライアントが、割り当てられている IM and Presence Service ノードの完全な FQDN を解決できることを確認してください。これは、マネージドファイル転送の動作のために必要とされます。

## 外部データベースの要件



**ヒント** また、常設チャットやメッセージアーカイブを導入している場合は、すべての機能に同じ外部データベースとファイルサーバを割り当てることができます。サーバ容量を判断する際には、見込まれる IM トラフィック、ファイル転送数、およびファイルサイズを考慮する必要があります。

外部データベースをインストールして設定します。サポートされるデータベースを含む詳細は、*IM and Presence* データベース セットアップ ガイド を参照してください。

さらに、以下のガイドラインに従ってください。

- IM and Presence サービス クラスタ内の各 IM and Presence サービス ノードに対して 1 つの固有の論理外部データベース インスタンスが必要です。
- 外部データベースは、仮想化プラットフォームと非仮想化プラットフォームの両方でサポートされています。
- ログに記録されるメタデータの完全なリストについては、*Cisco Unified Communications Manager* での *IM and Presence Service* のデータベース設定ガイドの「外部データベースツール」の AFT\_LOG テーブルを参照してください。
- IPv6 を使用して外部データベースに接続している場合は、[IPv6 を設定する](#) を確認します。

## 外部ファイルサーバの要件

外部ファイルサーバをセットアップする際は、以下のガイドラインに従ってください。

- ファイルサーバの容量に応じて、各 IM and Presence Service ノードは独自の Cisco XCP File Transfer Manager ファイルサーバディレクトリを必要とします。ただし、複数のノードで同じ物理ファイルサーバインストールを共有することもできます。
- ファイルサーバは ext4 ファイルシステム、SSHv2、および SSH ツールをサポートする必要があります。
- ファイルサーバーは、4.9、6.x、and 7.x の OpenSSH バージョンをサポートする必要があります。

- **IM and Presence Service** と外部ファイルサーバの間のネットワークスループットは、1秒間に60MBを超えている必要があります。

ファイルサーバの転送速度を判別するために、マネージドファイル転送を有効化した後で、`show fileserver transferspeed` CLI コマンドを使用できます。なお、システムの稼働率が高いときにこのコマンドを実行すると、コマンドから返される値に影響を与えることがあります。このコマンドの詳細については、このリンクの *Cisco Unified Communications Solutions* コマンドラインインタフェースガイドを参照してください。

### 外部ファイルサーバのパーティション

サーバ上で稼働している他のアプリケーションが書き込まないように、ファイル転送ストレージ専用の別のパーティションを1つ以上作成することをシスコでは推奨しています。すべてのファイルストレージディレクトリを、これらのパーティションに作成してください。

次の例をご覧ください。

- パーティションを作成する場合、**IM and Presence Service** のデフォルトファイルサイズ(0)を設定すると、最大4GBまでファイルを転送できることに注意してください。マネージドファイル転送をセットアップするときには、この設定を低い値にすることができます。
- 1日あたりのアップロード数と平均ファイルサイズを考慮してください。
- 予想されるファイル容量を保持するのに十分なディスク領域がパーティションにあることを確認します。
- たとえば12000人のユーザが1時間あたり平均100KBのファイルを2つ転送すると、1日8時間では19.2GBになります。

### 外部ファイルサーバのディレクトリ構造

次の例に示すように、最初のファイル転送が発生すると、タイムスタンプ付きのサブディレクトリが自動生成されます。

- **IM and Presence Service** ノード上にパス `/opt/mftFileStore/node_1/` を作成します。
- ディレクトリ `/files/` が自動生成されます。
- 3つの `/chat_type/` ディレクトリ (`im`、`persistent`、`groupchat`) が自動的に生成されます。
- 日付のディレクトリ `/YYYYMMDD/` が自動生成されます。
- 時間のディレクトリ `/HH/` が自動生成されます。1時間以内に1,000個を超えるファイルが転送されると、追加のロールオーバーディレクトリ `/HH.n/` が作成されます。
- ファイルは、自動生成されたエンコードリソース名付きで保存されます(これ以降、`file_name` と表します)。

この例では、ファイルの完全パスは  
/opt/mftFileStore/node\_1/files/chat\_type/YYYYMMDD/HH/file\_name となります。

この例のパスを使用すると：

- 2014年8月11日15.00～15.59 UTCに1対1のIMで転送されたファイルは、以下のディレクトリに配置されます。  
/opt/mftFileStore/node\_1/files/im/20140811/15/file\_name
- 2014年8月11日16.00～16.59 UTCに常設グループチャットで転送されたファイルは、以下のディレクトリに配置されます。  
/opt/mftFileStore/node\_1/files/persistent/20140811/16/file\_name
- 2014年8月11日16.00～16.59 UTCにアドホックチャットで転送された1001番目のファイルは、以下のディレクトリに配置されます。  
/opt/mftFileStore/node\_1/files/groupchat/20140811/16.1/file\_name
- 1時間単位の中でファイル転送が発生しない場合、その期間にはディレクトリが作成されません。



---

(注) IM and Presence Service とファイルサーバの間のトラフィックはSSHFSを使用して暗号化されますが、ファイルの内容は、暗号化されていない形式でファイルサーバに書き込まれます。

---

#### 外部ファイルサーバのユーザ認証

IM and Presence Service は、次のようにSSHキーを使用して自身とファイルサーバを認証します。

- IM and Presence Service のパブリックキーはファイルサーバに保存されます。
- SSHFS は、接続中にIM and Presence Service のプライベートキーを検証します。これで、すべてのファイルの内容が確実に暗号化されます。
- ファイルサーバのパブリックキーは、IM and Presence Service に格納されます。これによりIM and Presence Service は設定済みのファイルサーバに確実に接続し、中間者攻撃を最小限に抑えることができます。



---

(注) ノードの公開キーはノードの割り当てが解除されると無効になります。ノードが再び割り当てられると、新しいノード公開キーが自動的に生成されます。このキーを外部ファイルサーバで再設定する必要があります。

---

# マネージドファイル転送のタスクフロー

これらのタスクを完了して、IM and Presence Serviceのマネージドファイル転送機能を設定し、外部ファイルサーバを設定します。

## 始める前に

マネージドファイル転送用の外部データベースと外部ファイルサーバを設定します。要件については、以下を参照してください。

- [外部データベースの要件 \(3 ページ\)](#)
- [外部ファイルサーバの要件 \(3 ページ\)](#)

外部データベースの設定方法の詳細については、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>の *IM and Presence Service* 外部データベースセットアップガイドを参照してください。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">外部データベース接続の追加 (7 ページ)</a>	IM and Presence Serviceから外部データベースへの接続を設定します。
ステップ 2	<a href="#">外部ファイルサーバのセットアップ (7 ページ)</a>	ファイルサーバ上でユーザ、ディレクトリ、帰属、権限、および他のタスクを設定する前に、以下の手順を実行します。
ステップ 3	<a href="#">外部ファイルサーバのユーザの作成 (9 ページ)</a>	外部ファイルサーバのユーザを作成します。
ステップ 4	<a href="#">外部ファイルサーバのディレクトリのセットアップ (10 ページ)</a>	外部ファイルサーバの最上位レベルのディレクトリ構造を設定します。
ステップ 5	<a href="#">外部ファイルサーバの公開キーの取得 (11 ページ)</a>	外部ファイルサーバ公開キーを取得します。
ステップ 6	IM and Presence Service での外部ファイルサーバのプロビジョニング (12 ページ)	外部ファイルサーバに関する以下の情報を取得します。
ステップ 7	Cisco XCP File Transfer Manager のアクティベーションの確認 (14 ページ)	マネージドファイル転送が有効になっている各ノードで、Cisco XCP File Transfer Manager サービスが有効化されていなければなりません。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	マネージドファイル転送の有効化 (15 ページ)	IM and Presence Serviceでのマネージドファイル転送を有効にします。
ステップ 9	外部サーバのステータスの確認 (17 ページ)	外部データベースの設定と外部ファイルサーバの設定に問題がないことを確認します。

## 外部データベース接続の追加

IM and Presence Serviceから外部データベースへの接続を設定します。マネージドファイル転送では、各 IM and Presence Service ノードに対して 1 つの固有の論理外部データベース インスタンスが必要です。

### 始める前に

各外部データベースの設定詳細については、以下の *IM and Presence Service* 外部データベース セットアップ ガイドを参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>

### 手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、メッセージング > 外部サーバの設定 > 外部データベースを選択します。
- ステップ 2 [新規追加] をクリックします。
- ステップ 3 データベース名 フィールドに、データベースの名前を入力します。
- ステップ 4 データベースタイプ ドロップダウンから、導入する外部データベースのタイプを選択します。
- ステップ 5 データベースの ユーザ名 および パスワード情報 を入力します。
- ステップ 6 ホスト名 フィールドにホストの DNS ホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 7 外部データベースの設定 ウィンドウで残りの設定を入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 8 [保存 (Save) ] をクリックします。
- ステップ 9 この手順を繰り返して、外部データベース インスタンスへの各接続を作成します。

## 外部ファイルサーバのセットアップ

ファイルサーバ上でユーザ、ディレクトリ、帰属、権限、および他のタスクを設定する前に、以下の手順を実行します。

## 始める前に

外部ファイルサーバの設計上の推奨事項を確認します。詳細については、[外部ファイルサーバの要件 \(3 ページ\)](#) を参照してください。

## 手順

**ステップ 1** サポート対象のバージョンの Linux をインストールします。

**ステップ 2** 次のいずれかのコマンドを root として入力し、ファイルサーバが SSHv2 および OpenSSH 4.9 以降をサポートしていることを確認します。

```
# telnet localhost 22

Trying ::1...

Connected to localhost.

Escape character is '^]'.

SSH-2.0-OpenSSH_5.3

または

# ssh -v localhost

OpenSSH_5.3p1, OpenSSL 1.0.0-fips 29 Mar 2010

debug1: Reading configuration data /root/.ssh/config ...

...debug1: Local version string SSH-2.0-OpenSSH_5.3

...
```

**ステップ 3** プライベート/パブリック キーの認証を許可するには、`/etc/ssh/sshd_config` ファイルで以下のフィールドが `yes` に設定されていることを確認します。

- `RSAAuthentication yes`
- `PubkeyAuthentication yes`

ファイル内でこれらの行をコメントアウトした場合、設定をそのまま保持することが可能です。

**ヒント** また、セキュリティを強化するために、ファイル転送ユーザ（この例では `mftuser`）に対してパスワードログインを無効にすることもできます。これにより、必ず SSH のパブリック/プライベート キー認証によってログインされるようになります。

**ステップ 4** サーバ上で稼動している他のアプリケーションが書き込まないように、ファイル転送ストレージ専用の別のパーティションを1つ以上作成することをシスコでは推奨しています。すべてのファイルストレージディレクトリを、これらのパーティションに作成してください。



## 次のタスク

[外部ファイル サーバのユーザの作成 \(9 ページ\)](#)

# 外部ファイル サーバのユーザの作成

外部ファイル サーバのユーザを作成します。

## 始める前に

[外部ファイル サーバのセットアップ \(7 ページ\)](#)

## 手順

**ステップ 1** ファイル サーバ上で `root` として、マネージドファイル転送機能用のユーザを作成します。このユーザは、ファイルストレージのディレクトリ構造を所有し（この例では `mftuser` を使用）、強制的にホーム ディレクトリを作成します（`-m`）。

```
# useradd -m mftuser
# passwd mftuser
```

**ステップ 2** マネージドファイル転送ユーザに切り替えます。

```
# su mftuser
```

**ステップ 3** `~mftuser` ホーム ディレクトリの下に、キースタとして使用する `.ssh` ディレクトリを作成します。

```
$ mkdir ~mftuser/.ssh/
```

**ステップ 4** `.ssh` ディレクトリの下に `authorized_keys` ファイルを作成します。このファイルは、マネージドファイル転送が有効になっている各ノードについて、パブリック キーを保持するのに使われます。

```
$ touch ~mftuser/.ssh/authorized_keys
```

**ステップ 5** パスワードを使用しない SSH が機能するように、正しい権限を設定します。

```
$ chmod 700 ~mftuser (directory)
$ chmod 700 ~/.ssh (directory)
$ chmod 700 ~/.ssh/authorized_keys (file)
```

(注) いくつかの Linux システムでは、SSH の設定によってこれらの権限が異なることがあります。

## 次のタスク

[外部ファイル サーバのディレクトリのセットアップ \(10 ページ\)](#)

## 外部ファイルサーバのディレクトリのセットアップ

外部ファイルサーバの最上位レベルのディレクトリ構造を設定します。

任意のディレクトリ名を付けて、任意のディレクトリ構造を作成することができます。必ずマネージドファイル転送が有効になっている各ノード用にディレクトリを作成してください。後に、**IM and Presence Service** でマネージドファイル転送を有効にする際には、各ディレクトリをノードに割り当てる必要があります。



**重要** マネージドファイル転送が有効になっている各ノード用に1つのディレクトリを作成する必要があります。



(注) ファイルサーバのパーティション/ディレクトリは、ファイルの格納に使用される **IM and Presence Service** ディレクトリにマウントされます。

始める前に

[外部ファイルサーバのユーザの作成 \(9 ページ\)](#)

手順

**ステップ 1** root ユーザーに切り替えます。

```
$ exit
```

**ステップ 2** マネージドファイル転送が有効になっている **IM and Presence Service** のすべてのノードのディレクトリを格納するために、最上位のディレクトリ構造（この例では `/opt/mftFileStore/`）を作成します。

```
# mkdir -p /opt/mftFileStore/
```

**ステップ 3** `/opt/mftFileStore/` の所有者として `mftuser` を指定します。

```
# chown mftuser:mftuser /opt/mftFileStore/
```

**ステップ 4** `mftuser` に、`mftFileStore` ディレクトリに対する占有権を付与します。

```
# chmod 700 /opt/mftFileStore/
```

**ステップ 5** `mftuser` に切り替えます。

```
# su mftuser
```

**ステップ 6** マネージドファイル転送が有効になっている各ノードに関して、`/opt/mftFileStore/` の下にサブディレクトリを作成します（後で、マネージドファイル転送を有効にするときに各ディレクトリを1つのノードに割り当てます）。

```
$ mkdir /opt/mftFileStore/{node_1,node_2,node_3}
```

- (注)
- これらのディレクトリおよびパスは、Cisco Unified CM IM and Presence 管理ページでファイルサーバをプロビジョニングする際に設定する **外部ファイルサーバディレクトリ** フィールドで使用されます。
  - 複数の IM and Presence Service ノードがこのファイルサーバに書き込む場合は、前述の例で3つのノード {node\_1,node\_2,node\_3} に設定したように、各ノードのターゲットディレクトリを定義する必要があります。
  - 各ノードのディレクトリ内では、転送タイプのサブディレクトリ (im、groupchat、および persistent) が IM and Presence Service によって自動的に作成されます。その後のすべてのディレクトリも同様です。

---

### 次のタスク

[外部ファイルサーバの公開キーの取得 \(11 ページ\)](#)

## 外部ファイルサーバの公開キーの取得

外部ファイルサーバ 公開キーを取得します。

### 始める前に

[外部ファイルサーバのディレクトリのセットアップ \(10 ページ\)](#)

### 手順

---

**ステップ 1** ファイルサーバのパブリック キーを取得するには、次のように入力します。

```
$ ssh-keyscan -t rsa host
```

*host* はファイルサーバのホスト名、FQDN、または IP アドレスです。

- 警告
- ファイルサーバのパブリック キーをスプーフィングする「中間者攻撃」を防ぐには、`ssh-keyscan -t rsa host` コマンドで返されるパブリック キーの値が、ファイルサーバの実際のパブリック キーであることを確認する必要があります。
  - ファイルサーバで、(このシステムでは /etc/ssh/ の下にある) `ssh_host_rsa_key.pub` ファイルの場所に移動し、パブリック キー ファイルの内容と、`ssh-keyscan -t rsa host` コマンドで返されたパブリック キー値を比べて、ホスト以外の部分が一致することを確認してください (ファイルサーバの `ssh_host_rsa_key.pub` ファイルにはホストが存在しません)。

**ステップ 2** `ssh_host_rsa_key.pub` ファイルの内容ではなく、`ssh-keyscan -t rsa host` コマンドの結果をコピーします。サーバのホスト名、FQDN、または IP アドレスから最後まで、必ずキー値全体をコピーしてください。

(注) ほとんどの場合、サーバのキーはホスト名または FQDN で始まりますが、IP アドレスで始まることもあります。

たとえば、次の内容をコピーします。

```
hostname ssh-rsa AAAQEAzRevlQCH1KFAAnXwhd5UvEFzJs...
...a7y49d+/Am6+ZxkLc4ux5xXZueL3GSGt4rQUy3rp/sdug+/+N9MQ==
```

(... を追加)。

**ステップ 3** `ssh-keyscan -t rsa host` コマンドの結果をテキストファイルに保存します。これは、「*IM and Presence Service* での外部ファイル サーバの展開」の手順でファイル サーバを設定するときに必要になります。

**ステップ 4** 作成した `authorized_keys` ファイルを開き、開いたままにしておきます。後に、IM and Presence Service でファイル サーバをプロビジョニングする際にこれが必要となります。

(注) 公開キーを取得できない場合は、[外部ファイルサーバの公開キーおよび秘密キーのトラブルシューティング \(18 ページ\)](#) で詳細なヘルプを参照してください。

---

### 次のタスク

[IM and Presence Service での外部ファイル サーバのプロビジョニング \(12 ページ\)](#)

## IM and Presence Service での外部ファイル サーバのプロビジョニング

マネージドファイル転送を有効にするクラスタ内の各ノードについて、1 つの外部ファイル サーバインスタンスを設定する必要があります。

外部ファイル サーバインスタンスは、外部ファイル サーバの物理インスタンスである必要はありません。ただし、ある 1 つのホスト名に関して、それぞれの外部ファイル サーバインスタンス用に一意の外部ファイルサーバディレクトリパスを指定する必要があります。同じノードから、すべての外部ファイル サーバインスタンスを設定できます。

### 始める前に

[外部ファイル サーバの公開キーの取得 \(11 ページ\)](#)

外部ファイル サーバに関する以下の情報を取得します。

- ホスト名、FQDN、または IP アドレス
- 公開鍵
- ファイルストレージディレクトリへのパス

- ユーザ名

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、メッセージング > 外部サーバの設定 > 外部ファイルサーバを選択します。
- ステップ 2** [新規追加] をクリックします。  
[外部ファイルサーバ (External File Servers) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** サーバの詳細を入力します。フィールドおよび設定オプションの詳細については、[外部ファイルサーバのフィールド \(13 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save) ] をクリックします。
- ステップ 5** マネージドファイル転送が有効化されているクラスタノードごとに、個別の外部ファイルサーバインスタンスを作成するまで、この手順を繰り返します。

### 次のタスク

[Cisco XCP File Transfer Manager のアクティベーションの確認 \(14 ページ\)](#)

## 外部ファイルサーバのフィールド

フィールド	説明
名前	ファイルサーバの名前を入力します。すぐに識別できるよう、サーバ名はできるだけ説明的な名前にしてください。 最大文字数は 128 文字です。使用できる文字は英数字、ダッシュ、および下線文字です。
ホスト/IP アドレス (Host/IP Address)	ファイルサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。 (注) <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ホスト/IPアドレス (Host/IP Address) ] フィールドに入力する値は、下記の [外部ファイルサーバパブリックキー (External File Server Public Key) ] フィールドで指定するキーの先頭部分と一致する必要があります。</li> <li>• この設定を変更した場合は、Cisco XCP Router サービスを再起動する必要があります。</li> </ul>

フィールド	説明
外部ファイルサーバ パブリックキー (External File Server Public Key)	<p>ファイルサーバのパブリックキー（テキストファイルに保存するよう指示されたキー）を、このフィールドに貼り付けます。</p> <p>キーを保存しなかった場合は、次のコマンドを実行してファイルサーバからそれを取得できます。</p> <pre>\$ ssh-keyscan -t rsa host</pre> <p>（ファイルサーバ上で）<i>host</i> は、ファイルサーバの IP アドレス、ホスト名、または FQDN です。</p> <p>ホスト名、FQDN、または IP アドレスから始まって末尾まで、キーのテキスト全体をコピー/ペーストする必要があります。たとえば、次のようにコピーします。</p> <pre>extFileServer.cisco.com ssh-rsa AAAQEAzRevlQCH1KFAAnXwhd5UvEFzJs... ...a7y49d+/Am6+ZxkLc4ux5xXZueL3GSGt4rQUy3rp/sdug+/+N9MQ==</pre> <p>（... を追加）。</p> <p><b>重要</b> この値は必ず、[ホスト/IPアドレス（Host/IP Address）]フィールドに入力したホスト名、FQDN、または IP アドレスで始まる必要があります。たとえば [ホスト/IPアドレス（Host/IP Address）]フィールドで <code>extFileServer</code> が使用されている場合は、このフィールドの先頭部分は <code>extFileServer</code> となり、その後には <code>rsa</code> キー全体が続きます。</p>
外部ファイルサーバ ディレクトリ (External File Server Directory)	<p>ファイルサーバディレクトリ階層の最上位のパス（例：<code>/opt/mftFileStore/node_1/</code>）。</p>
ユーザ名	外部ファイルサーバ管理者のユーザ名。

## Cisco XCP File Transfer Manager のアクティベーションの確認

マネージドファイル転送が有効になっている各ノードで、Cisco XCP File Transfer Manager サービスが有効化されていなければなりません。

外部データベースおよび外部ファイルサーバがすでに割り当てられており、さらにサービスがデータベースに接続してファイルサーバをマウントできる場合にのみ、このサービスが起動します。

始める前に

[IM and Presence Service](#) での外部ファイルサーバのプロビジョニング（12 ページ）

## 手順

- ステップ 1 クラスタ内のいずれかのノードで [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability) ] ユーザ インターフェイスにログインします。
- ステップ 2 [ツール (Tools) ] > [サービス アクティベーション (Service Activation) ] を選択します。
- ステップ 3 サーバドロップダウンから、マネージドファイル転送が有効になっているノードを選択して、**移動**をクリックします。
- ステップ 4 **Cisco XCP File Transfer Manager** サービスの **アクティベーション ステータス** が **アクティブ** であることを確認します。
- ステップ 5 サービスが非アクティブ化されている場合は、**Cisco XCP File Transfer Manager** チェックボックスをオンにして、**保存**をクリックします。
- ステップ 6 マネージドファイル転送が有効になっているすべてのクラスタ ノードで、この手順を繰り返します。

## 次のタスク

[マネージドファイル転送の有効化 \(15 ページ\)](#)

# マネージドファイル転送の有効化

IM and Presence Serviceでのマネージドファイル転送を有効にします。

## 手順

- ステップ 1 **Cisco Unified CM IM and Presence 管理** にログインし、**メッセージング > ファイル転送** を選択します。**ファイル転送** ウィンドウが開きます。
- ステップ 2 ファイル転送設定エリアで、導入に応じて、**マネージドファイル転送** あるいは **マネージドピアツーピアファイル転送** を選択します。[ファイル転送のオプション \(17 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3 [最大ファイルサイズ (Maximum File Size) ] を入力します。0 を入力すると、最大サイズ (4 GB) が適用されます。

(注) この変更を有効にするには、Cisco XCP Router サービスを再起動する必要があります。
- ステップ 4 [マネージドファイル転送の割り当て (Managed File Transfer Assignment) ] エリアで、クラスタの各ノードに対して外部データベースと外部ファイルサーバを割り当てます。
  - a) 外部データベース：ドロップダウンリストから、外部データベースの名前を選択します。
  - b) 外部ファイルサーバ：ドロップダウンリストから、外部ファイルサーバの名前を選択します。

**ステップ5** [保存 (Save) ]をクリックします。

[保存 (Save) ]をクリックすると、それぞれの割り当てに対して[ノードパブリックキー (Node Public Key) ]リンクが表示されます。

**ステップ6** マネージドファイル転送が有効になるクラスタ内の各ノードについて、ノードのパブリックキー全体を外部ファイルサーバの `authorized_keys` ファイルにコピーする必要があります。

- a) ノードのパブリックキーを表示するには、[マネージドファイル転送の割り当て (Managed File Transfer Assignment) ]エリアをスクロールダウンして[ノードパブリックキー (Node Public Key) ]リンクをクリックします。ノードのIPアドレス、ホスト名、FQDNを含めて、ダイアログボックスの内容全体をコピーします。

例：

```
ssh-rsa
yc2EAAAABIwAAAQEAp2g+S2XDEzptN11S5h5nwVleKBnfG2pdW6KiLfzu/sFLegioIIqA8jBguNY/...
...5s+tusrtBBuciCkH5gfXwrsFS000AlfFvwnfq1xmKmIS9W2rf0Qp+A+G4MVpTxHgaonw== imp@imp_node
(...を追加)。
```

警告

- マネージドファイル転送機能が設定されている場合、[ファイル転送タイプ (File Transfer Type) ]が[無効 (Disabled) ]または[ピアツーピア (Peer-to-Peer) ]に変更されると、マネージドファイル転送のすべての設定が削除されます。
- 外部データベースおよびファイルサーバからノードが割り当て解除されると、ノードのキーは無効になります。

- b) 外部ファイルサーバ上で、`mftuser` のホームディレクトリの下に作成した `~mftuser/.ssh/authorized_keys` ファイルがまだ開いていない場合は、これを開いて、(新しい行で) 各ノードのパブリックキーを付加します。

(注) `authorized_keys` ファイルには、ファイルサーバに割り当てられている、マネージドファイル転送が有効な各 IM and Presence Service ノードのパブリックキーが含まれる必要があります。

- c) `authorized_keys` ファイルを保存して閉じます。

**ステップ7** (オプション) マネージドファイル転送サービスパラメータを設定して、外部ファイルサーバのディスク領域に関する RTMT アラートが生成されるしきい値を定義します。

**ステップ8** マネージドファイル転送が有効になっているすべてのノード上で、Cisco XCP Router サービスを再起動します。「Cisco XCP Router サービスの再起動」を参照してください。

## 次のタスク

[外部サーバのステータスの確認 \(17 ページ\)](#)



## ファイル転送のオプション

次のいずれかのオプションを [ファイル転送] ウィンドウで設定することができます。

ファイル転送オプション	説明
Disabled	ファイル転送がクラスタで無効化されています。
ピアツーピア	1対1のファイル転送は許可されますが、サーバではファイルのアーカイブや保存が行われません。グループチャットのファイル転送はサポートされません。
マネージドファイル転送	1対1およびグループのファイル転送が許可されます。ファイル転送がデータベースのログに記録され、転送されたファイルはサーバに保存されます。クライアントがマネージドファイル転送をサポートしている必要もあります。そうでない場合、ファイル転送は許可されません。
マネージドファイル転送およびピアツーピアファイル転送	1対1およびグループのファイル転送が許可されます。ファイル転送がデータベースのログに記録され、転送されたファイルはサーバに保存されます（ただしクライアントがマネージドファイル転送をサポートする場合のみ）。クライアントがマネージドファイル転送をサポートしていない場合、このオプションはピアツーピアオプションと同等になります。



- (注) マネージドファイル転送がノードで設定されていて、ファイル転送タイプを**無効**または**ピアツーピア**に変更した場合は、そのノードの外部データベースと外部ファイルサーバにマップされた設定が削除されることに注意してください。データベースとファイルサーバの設定は残りますが、そのノードでマネージドファイル転送を再び有効にする場合は、データベースとファイルサーバの再割り当てが必要になります。

アップグレード以前の設定により、IM and Presence Service リリース 10.5(2) 以降へのアップグレード後、**無効にする** あるいは **ピアツーピア** が選択されています。

## 外部サーバのステータスの確認

外部データベースの設定と外部ファイルサーバの設定に問題がないことを確認します。

始める前に

[マネージドファイル転送の有効化 \(15 ページ\)](#)

手順

---

**ステップ1** 外部データベースのステータスを確認するには：

- a) **Cisco Unified CM IM and Presence** 管理で、**メッセージング > 外部サーバの設定 > 外部データベース**を選択します。
- b) [外部データベースのステータス (External Database Status)] エリアに示される情報を確認します。

**ステップ2** 外部ファイルサーバが割り当てられたことを確認するIM and Presence Service ノードで：

- a) **Cisco Unified CM IM and Presence** 管理で、**メッセージング > 外部サーバの設定 > 外部ファイルサーバ**を選択します。
  - b) 外部ファイルサーバのステータス エリアに示される情報を確認して、接続に問題がないことを確認します。
- 

## 外部ファイルサーバの公開キーおよび秘密キーのトラブルシューティング

サーバのプライベート/パブリック キー ペアが生成される時、プライベート キーは通常、`/etc/ssh/ssh_host_rsa_key` に書き込まれます。

パブリック キーは `/etc/ssh/ssh_host_rsa_key.pub` に書き込まれます。

これらのファイルがない場合は、以下の手順に従ってください。

手順

---

**ステップ1** 次のコマンドを入力します。

```
$ ssh-keygen -t rsa -b 2048
```

**ステップ2** ファイルサーバのパブリック キーをコピーします。

ホスト名、FQDN、またはIPアドレスから、パブリック キーのテキストの文字列全体をコピーする必要があります (例：`hostname ssh-rsa AAAAB3NzaC1yc...`)。ほとんどのLinux環境では、サーバのホスト名またはFQDNがキーに含まれています。

**ヒント** `$ ssh-keygen -t rsa -b 2048` コマンドの出力にホスト名が含まれていない場合は、代わりに `$ ssh-keyscan hostname` コマンドの出力を使用します。

**ステップ3** このファイルサーバを使用するように設定されている IM and Presence Service の各ノードについて、[外部ファイルサーバ設定 (External File Server Configuration)] ウィンドウの [外部ファイルサーバパブリックキー (External File Server Public Key)] フィールドにパブリック キーを貼り付けてください。

**重要** マネージドファイル転送機能には、パスワードを使用しない SSH を設定する必要があります。パスワードを使用しない SSH を設定する手順の詳細については、SSHD マニュアル ページを参照してください。

(注) パブリッシャー ノードからサブスクリバ ノードにステータスを確認するとき、および逆方向に確認するとき、「この外部ファイルサーバ用の診断テストは次から実行される場合があります (The diagnostics tests for this External File Server may be run from here.)」という情報メッセージが表示されます。

このログには、「-7」つまり外部ファイルサーバが設定されていない他のノードのステータスを表示していることを示す、「ping」が表示されます。

パブリッシャーノードでは外部ファイルサーバを設定し、パブリッシャー ノードの公開キーは外部ファイルサーバの「Authorized\_key」ファイルで共有されます。

---

## マネージドファイル転送の管理

マネージドファイル転送を設定した後、この機能を継続的に管理する必要があります。たとえば、ファイルサーバとデータベースの拡張を管理するためにシステムを導入する必要があります。。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。